

# みんなの活動だより

2026.4

発行: MISHOP 広報部会

95

## 国際交流スキーツアー 2026



「国際交流スキーツアー2026」が2月14-15日の1泊2日、長野県のシャトレーゼスキーバレー野辺山で行われました。米国、ブラジル、中国、台湾、ケニア出身の20人と会員ボランティアが参加し、スキーや雪遊びなど楽しい時間を過ごしました。

スキーは初めてという外国籍市民もいて、スキーレッスンでは皆真剣な表情で取り組み、滑れるようになりました。夜は宿泊先の三鷹市川上郷自然の村でゲーム大会や交流会で盛り上がりました。

### 【感想シートから】

外国籍市民

○とても嬉しかったです！初めてスキー体験しました。本当に怖かったけど、だんだん慣れてきて楽しかった。コーチやボランティアに心から感謝しました。いつも教えてくれてありがとうございます。最後にはスキーできるようになって嬉しい。

○I enjoyed skiing with everyone and having time to play games and get to know each other. Thank you so much for preparing this opportunity for us.

○This was an amazing trip. The trip was well organized. The Japanese staff and volunteers were very kind and helpful. I enjoyed meeting people and skiing with them. Thank you so much!



会員ボランティア

○雪ヨシ、天気ヨシ、参加者みんなヨシ、インストラクターも親切で楽しい。言うことないスキーでした。ゲームも楽しみただけ良かったです。ありがとうございました。

○今年も最高に楽しかったです。台湾女性2人が滑れるようになって、最後には“楽しい”と言っていたので良かったです。スタッフ全員で盛り上げられてとても最高でした！

The “MISHOP International Ski Tour 2026” was held on February 14-15 at Chateraise Ski Valley Nobeyama (Nagano). Twenty foreign participants from the United States, Brazil, China, Taiwan, and Kenya, along with volunteers, enjoyed skiing, playing in the snow, and other fun activities.

Some foreign residents skied for the first time. All attended the lessons with serious intent, so that they were able to start skiing. In the evening, they enjoyed a lively game tournament and get-together at their lodging, the Mitaka City Kawakamigo Nature Village.

# 国際理解講座

## 「世界の中の中国と日本 現代中国理解」

2月21日(土)、三鷹産業プラザで第90回国際理解講座「世界の中の中国と日本 現代中国理解」が開かれました。講師のジャーナリスト、加藤千洋さんが「できれば『諍友』でありたい～現代中国の伴走者としての私～」のテーマで話しました。

加藤さんは1972年に朝日新聞社に入社、一連の中国報道で1999年度ポーン上田記念国際記者賞を受賞しました。現在はアジア・アフリカ文化財団(三鷹市)理事ほかを務めています。50年以上見つけてきた中国の伴走者としての思いと、今後の日中関係を語り、66人の参加者が熱心に耳を傾けました。

加藤さんは1968年、大学3年の夏、国交がなく謎の国だった中国を理解したいと、3週間にわたって広州・上海・北京で文化大革命に揺れる中国を見聞し、革命聖地の「井岡山」も訪ねて強い刺激を受けました。

1980年、瀋陽の遼寧大学に留学しました。瀋陽は満州事変の発端になる柳条湖事件発生地の近くですが、当時は改革開放の初期で現地には日本の発展に学ぼうとの雰囲気がありました。日中にとり最も大切なのは「諍友」の関係だと言います。「時に諫め、耳の痛い話もしてくれるありがたい友人」で、留学中、何人かの諍友を得られたそうです。その1人、梁従誠さんは環境保護運動のパイオニアで中国に進出する日本企業が増大するにつれ、汚染が発生したことをぐたいき具体的データで批判し、正しく報道して欲しいと言われたそうです。こういう直げんひとかとうきちょうざいさんひとにほんちゅうごくほうどうベギンしゃんはいだいな人が加藤さんの貴重な財産の一つです。日本の中国報道は北京、上海など大とし都市のニュースが中心で、広大な中国全体を把握するに不十分で、中国を知り伝えることはしんむずか真に難しいそうです。



都市のニュースが中心で、広大な中国全体を把握するに不十分で、中国を知り伝えることは真に難しいそうです。

日中関係の今後については楽観していません。中国は転換期を迎えています。①高度経済成長、②人口増加、③集団指導体制が終わりという「三つの終焉」が来ています。3

がつたかいちしゅしゅうほうべいがつべいこくだいとりょうほうちゅうう月に高市首相訪米、4月にトランプ米国大統領訪中があります。加藤さんは「第四の終焉」である「友好のみの日中関係の終わり」を感じていて、これからは是々非々で付き合い新しい関係を求めるべきだろうと話しました。関係を政治と経済のみで考えるのではなく、文化交流=文化の持つぬもりの力「文温」が大切であり、学生交流などを通じて双方がよく知り合う重要性を考えたいとのこと。



中国訪問が無理なら中国の人と知り合いになり食事や活動をするのが良いと思うが、日本社会の対中観は冷え込んでおり、容易な改善は難しい。どう温めるか見通しは暗いが、11月のAPEC首脳会議が中国で開かれるので、ここでの対話再開を期待したいとのことでした。(会員・山根正彦)

### 【感想シートから】

- 講演はもちろんです、質疑応答もとても面白かったです。昔の中国の話、実際の体験談、写真も拝見できて、興味深かったです。「一緒にご飯を食べる」というのが希望の持てる言葉だと思いました。
- ご自分の経験と最近の中国情勢等、分かりやすい話し方で、勉強になった。新しい言葉「そうゆう(諍友)」を知ることができた。

The 90th Lecture on International Understanding, “China and Japan in the World: Understanding Modern China,” was held on February 21 at the Mitaka Sangyo Plaza. Former Asahi Shimbun reporter and journalist Chihiro Kato spoke on the theme “If Possible, I Want to Be a ‘Plainspoken Friend’ ~Me as a Companion Runner with Modern China.” Sixty-six participants listened intently.

1917年に開園した井の頭恩賜公園は桜の名所として知られています。井の頭池周辺を中心に咲くソメイヨシノ約200本をはじめ、2月に開花した早咲きの河津桜から遅咲きの八重桜や山桜など園内に約400本あり、4月中旬まで白、ピンク、黄緑など色とりどりの花を楽しめます。

